

風土記の丘の花だより199

今、そしてこれから見られる植物(2023年8月19日)

台風7号は和歌山市を通過したようで、ちょうど目に入った時はすこし穏やかでしたが、午後からかなりの雨風でした。みな様、被害はありませんでしたか。風土記の丘は木の枝が散乱し、木の葉も多く落ちていて大変歩きにくかったですね。おかげで というのも変ですが、普段見られない物を見ることができました。



モミノキの実です。マツでいえば「松ぼっくり」です。普段はとても高くて見づらいですが(写真左)、台風の後、万葉植物園にたくさん落ちていました(写真右)。モミノキはクリスマスツリーでおなじみですが、和歌山市内の平地で自生はほとんど見ることはできません。紀伊山地などでは、ツガなどとともにごく普通に生えています。材はそれほど良質ではなく、昔から建材というよりは、棺や塔婆などに利用されてきました。



続いては小さな草です。これはクワクサです。名前のおり、クワに似た草です。大きさこそ違いますが、葉は確かにクワに似ています。今ちょうど花が咲いています。といっても華やかなものではありません。写真のように葉の付け根にコチャコチャとした、花らしくない花が丸くついています。クワの仲間(クワ科)では草本(草のこと)は珍しく、なんとこのクワクサだけです。これと言って特徴もないありふれた草で、振り向かれることもないでしょうが、こんな草もたまには眺めてやってください。



この草にも木の名前が付いています。エノキグサです。葉がエノキにそっくりです。でも、上のクワクサとちがって、これはエノキの仲間ではありません。エノキはアサ科、こっちはトウダイグサ科です。ただ葉の形がよく似ているので名付けられたようです。てっぺんに伸びているのが雄花、下で葉のようなものに包まれて咲いているのが雌花です。その形から、別名を「編笠草・あみがさそう」ともいうそうです。上のクワクサ同様、日向に生えるありふれた草です。



この草はどなたもご覧になったことがあると思いますが、さて、名前をご存じでしょうか?ちょっと昔、こんな名前の大きな相撲取りがいました。この草はコニシキソウです。でもそれとは正反対でとても小さな草です。ほとんど上に伸びず地面に生え広がります。また、茎を折ると白い乳が出ます。葉の中央の赤い斑点が特徴ですね。 松下